

横查情報月報



横浜市衛生研究所

平成28年8月号 目次

【トピックス】

- 横浜市における2015/2016シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析 1
- シックハウス対策検査 ～粘土から放散される化学物質について～ 5

【感染症発生動向調査】

- 横浜市感染症発生動向調査報告 7月 6

【情報提供】

- 衛生研究所WEBページ情報 11

横浜市における2015/2016シーズンの インフルエンザウイルス流行株の解析

- 横浜市における2015/2016シーズンのインフルエンザの流行は、AH1pdm09ウイルスとビクトリア系統および山形系統のB型ウイルス、AH3型ウイルスの混合流行でした。病原体定点調査での分離・検出数の割合は、A型ウイルス(AH1pdm09:47.2%、AH3型:4.5%)とB型ウイルス(ビクトリア系統:26.7%、山形系統:21.6%)がそれぞれ半数を占めました。A型ではAH1pdm09ウイルスが主流であり、B型ではビクトリア系統のウイルスがわずかに優勢でした。
- AH1pdm09ウイルスの抗原性状は、ワクチン株から大きな変異はみられず、HA遺伝子系統樹解析ではクレード6B.1に含まれる株が多数を占めました。
- ビクトリア系統と山形系統のB型ウイルスの性状はワクチン株と同等であり、系統樹解析では前者はクレード1Aに、後者はクレード3Iに含まれました。
- AH3型ウイルスの性状は、昨シーズン同様ワクチン株に対する中和反応性の低下がみられました。系統樹解析ではすべてサブクレード3C.2aに含まれ、ワクチン株が含まれるサブクレード3C.3aとは異なっていました。
- 入院・重症例ではAH1pdm09ウイルスによる割合が多く、また山形系統のB型ウイルスによる入院・重症例もみられました。
- 抗インフルエンザ薬感受性サーベイランスでは、AH1pdm09ウイルスの耐性株が2例、山形系統のB型ウイルスで低感受性株が1例分離されました。このうちオセルタミビルとペラミビルに対し薬剤感受性の低下がみられたのは、未治療の患者から分離したAH1pdm09ウイルスのみで、地域流行はみられませんでした。

【インフルエンザ様疾患の患者数】

2015年6月から2016年5月までにインフルエンザ定点(小児科94定点および内科59定点:計153定点)から報告されたインフルエンザ様疾患患者数は、定点あたり300人で昨シーズン同期の246人を上回り、過去10年では4番目の規模の流行でした。今シーズンは1月第1週に流行の目安となる定点あたりの報告数1.0人を超え、2月第5週(2月1日からの週)に48.9人とピークとなりました。その後、徐々に減少し5月第18週(5月2日からの週)に定点あたり1.0人を下回りました(図1)。

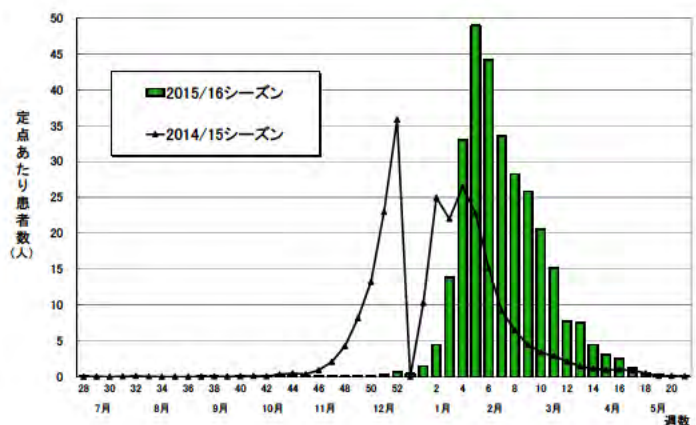


図1 定点あたり患者数

【病原体定点ウイルス調査】

病原体定点ウイルス調査においてはインフルエンザを疑う564件を検査し、AH1pdm09ウイルス83件、ビクトリア系統のB型ウイルス47件、山形系統のB型ウイルス38件、AH3型ウイルス8件が分離・検出されました。今シーズンは9月第40週(9月28日からの週)に瀬谷区の小児科定点からAH1pdm09ウイルスがはじめて検出され、2月第6週(2月8日からの週)をピークに5月第21週(5月23日からの週)まで分離・検出が続きました。一方、AH3型ウイルスは1月第1週に港北区の小児科定点から分離されましたが、その後は散発で分離されたのみでした。他方、B型ウイルスは12月第52週(12月21日からの週)に港北区の内科定点からビクトリア系統の

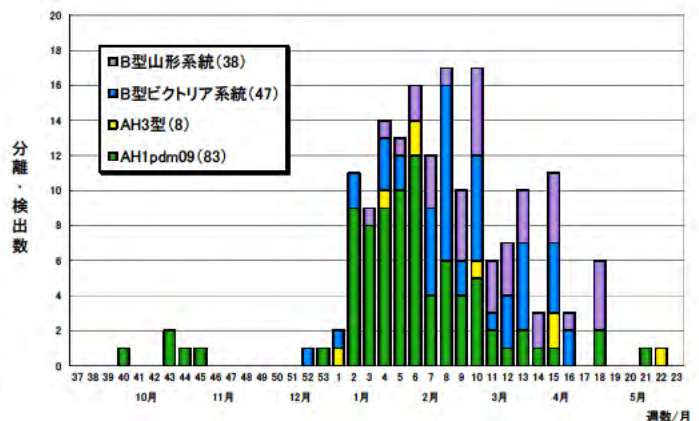


図2 病原体定点インフルエンザ分離・検出状況

ウイルスが、1月第3週(1月18日からの週)には磯子区の小児科定点から山形系統のウイルスがはじめて分離・検出されました。その後、2月第8週(2月22日からの週)と3月第10週(3月7日からの週)にピークがみられ、5月第18週(5月2日からの週)まで両系統が混在して分離・検出されました。ビクトリア系統と山形系統のウイルスの比率は55.3%対44.7%で、ビクトリア系統のウイルスがわずかに優勢となりました(図2)。

【集団かぜ調査】

集団かぜ調査では、2015年10月21日に南区の小学校から報告があり、AH1pdm09ウイルスが分離されました。11月19日には中区の中学校から報告があり、AH3型ウイルスが分離されましたが、12月9日の西区の小学校の検体からはN2遺伝子のみを検出でした。その後、流行期に入った2016年1月第3週には12区で発生がみられ、終息までの発生数は18区で669施設567学級でした。検査依頼のあった18集団73人についてウイルス学的調査を実施し、AH1pdm09ウイルス37件、ビクトリア系統のB型ウイルス21件、AH3型ウイルス4件、山形系統のB型ウイルス1件を分離・検出しました(表2)。

【入院サーベイランス】

入院サーベイランスでは、インフルエンザを疑う91件を検査し、AH1pdm09ウイルス11件、山形系統のB型ウイルス2件、AH3型ウイルスが1件分離・検出されました。3月まではAH1pdm09ウイルス(11件)とAH3型ウイルス(1件)による症例でしたが、4月は山形系統のB型ウイルスによる症例のみでした。このうち、重症例は肺炎5件(AH1pdm09ウイルス)、脳症例2件(AH1pdm09ウイルスと山形系統のB型ウイルス)、心筋炎1件(AH1pdm09ウイルス)でした。

各調査期間の検査合計は757件で、AH1pdm09ウイルス134件、ビクトリア系統のB型ウイルス68件、山形系統のB型ウイルス41件、AH3型ウイルス13件が分離・検出されました(表2)。

表1 集団かぜ調査結果

発生年月日 (採取日)	週	区	施設	検体数	ウイルス分離		遺伝子検索					総合判定	
					分離 株数	型	分離*1 陰性数	HA 遺伝子	陽性 件数	NA*2 遺伝子	陽性 件数		
2015.10.21	第43週	南	小学校	5	5	AH1pdm	0						AH1pdm
2015.11.19	第47週	中	中学校	5	3	AH3	2	AH3	1	N2	1		AH3
12. 9	第50週	西	小学校	5	0	陰性	5	陰性	0	N2	2		陰性
2016. 1.18	第 3週	神奈川	小学校	5	4	AH1pdm	1	陰性	0	N1	1		AH1pdm
1.19	第 3週	栄	小学校	3	2	AH1pdm	1	陰性	0	N1	1		AH1pdm
1.19	第 3週	緑	小学校	5	5	AH1pdm	0						AH1pdm
1.19	第 3週	港北	小学校	5	4	AH1pdm	1	陰性	0	N1	1		AH1pdm
1.20	第 3週	旭	小学校	5	4	B(Vic)*3 B(山)*4	0						B(Vic) & B(山)
1.20	第 3週	港南	小学校	5	5	B(Vic)	0						B(Vic)
1.20	第 3週	戸塚	小学校	5	5	B(Vic)	0						B(Vic)
1.20	第 3週	青葉	小学校	3	3	B(Vic)	0						B(Vic)
1.20	第 3週	金沢	小学校	3	2	B(Vic)	1	陰性	0	N1	1		B(Vic)
1.21	第 3週	鶴見	小学校	3	2	B(Vic)	1	AH1pdm	1	N1	1		B(Vic) & AH1pdm
1.22	第 3週	保土ヶ谷	小学校	4	4	AH1pdm	0						AH1pdm
1.22	第 3週	都筑	小学校	3	3	AH1pdm	0						AH1pdm
1.25	第 4週	磯子	小学校	4	4	AH1pdm	0						AH1pdm
1.29	第 4週	泉	小学校	3	3	AH1pdm	0						AH1pdm
2.16	第 6週	瀬谷	小学校	2	1	AH1pdm	1	AH1pdm	1	N1	1		AH1pdm
合計		18区	18施設	73件	60株	AH1pdm:35 B(Vic):21 AH3:3 B(山):1	13件	AH1pdm:2 AH3:1	3件	N1:6 N2:3	9件		AH1pdm:37 B(Vic):21 AH3:4 B(山):1

*1 分離陰性の検体のみ表示、*2 N2遺伝子のみ検出は参考値、*3 ビクトリア系統のB型ウイルス、*4 山形系統のB型ウイルス

表2 インフルエンザウイルス分離および遺伝子検査結果

各調査項目	検体数	インフルエンザ陽性数	AH1pdm09	B型(ビクトリア)	B型(山形)	AH3型
病原体定点等調査	564	176	83	47	38*	8
集団かぜ調査	73	63	37	21	1	4
入院サーベイランス	91	14	11	0	2	1
その他依頼検査	29	3	3	0	0	0
合計	757	256	134	68	41	13

*ビクトリア系統のB型ウイルスが分離され、山形系統のB型ウイルスの遺伝子が検出された重複感染を含む

【分離株の抗原性】

AH3型ウイルスはNA遺伝子の151番目の変異により、従来のHI試験では抗原性の差異が不正確となり、抗原解析データを示せなくなったことから、国立感染症研究所で実施した中和試験結果をまとめました。また、AH1pdm09ウイルスとB型ウイルスのウサギ免疫血清によるHI試験も参考値です(図3)。AH1pdm09ウイルスはワクチン株であるA/カリフォルニア/07/2009と同等~4倍差であり、抗原性は類似していました。AH3型ウイルスは8株中7株にワクチン株であるA/スイス/9715293/2013と8倍以上の反応性低下がみられました。B型ウイルスのうち、ビクトリア系統のウイルスはワクチン株であるB/テキサス/2/2013と、山形系統のウイルスはワクチン株であるB/プーケット/3073/2013と4倍以内の反応性を示し、大きな変異はみられませんでした。

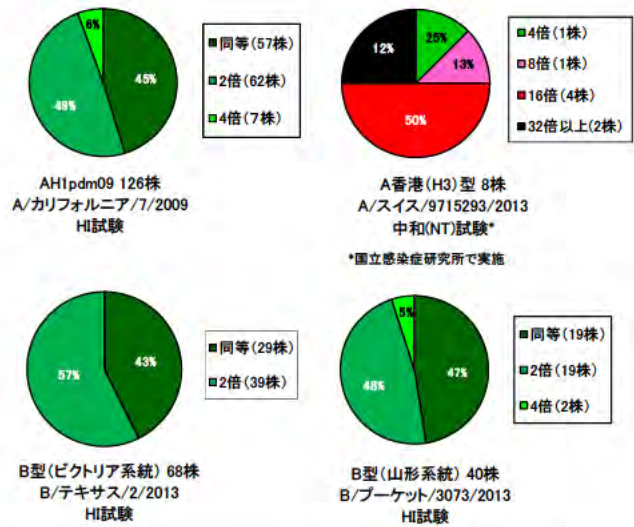


図3 2015/2016シーズン分離株の抗原解析結果

【分離株の系統樹解析】

抗原性に関与するHA遺伝子についてPCRで増幅後、ダイレクトシーケンス法により塩基配列を決定し、Neighbor-joining法により系統解析を行いました。

AH1pdm09ウイルスのHA遺伝子は、昨シーズンのA/横浜/50/2015が含まれるクレード6Bから2つのサブクレードに分かれました。今シーズンはS84N、S162N、I216Tのアミノ酸置換が共通のサブクレード6B.1に含まれる株が多数を占めました。サブクレード6B.2に含まれる株も少数分離されました(図4)。

AH3型ウイルスのHA遺伝子は、昨シーズン同様サブクレード3C.2aに含まれ、さらにN171K、I406V、G484Eのアミノ酸に置換した株が多く、昨シーズンのワクチン株と同じサブクレード3C.3aに含まれるウイルス株は分離されませんでした(図5)。なお、2016/2017シーズンの国内ワクチン株はサブクレード3C.2aに含まれるA/香港/5738/2014が決定されました¹⁾。

B型ウイルスの系統樹は大きくビクトリア系統と山形系統の2つの枝に分かれます。ビクトリア系統のウイルスは、2015/2016シーズンのワクチン株であるB/テキサス/02/2013と同じクレード1Aに含ま

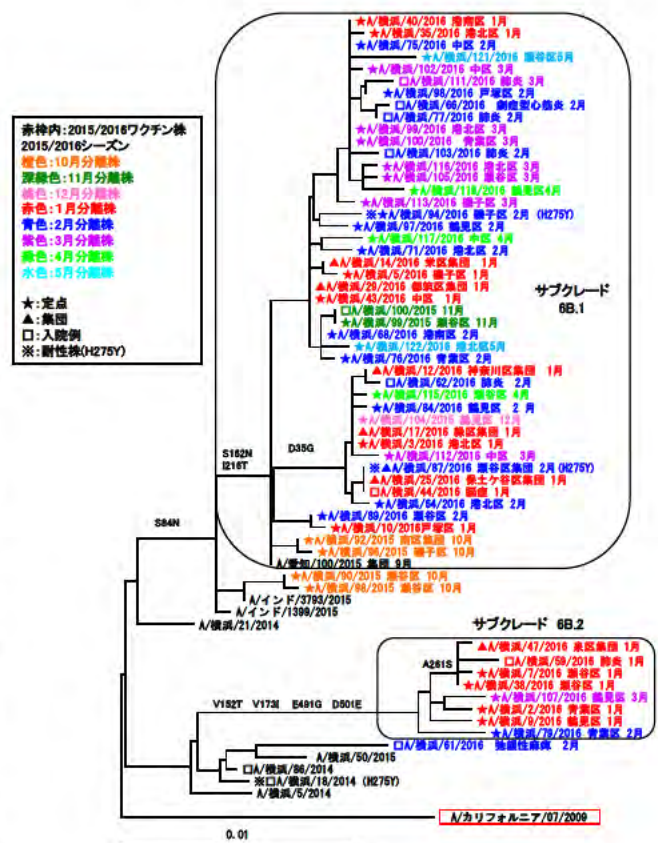


図4 AH1pdm09ウイルスのNJ系統樹

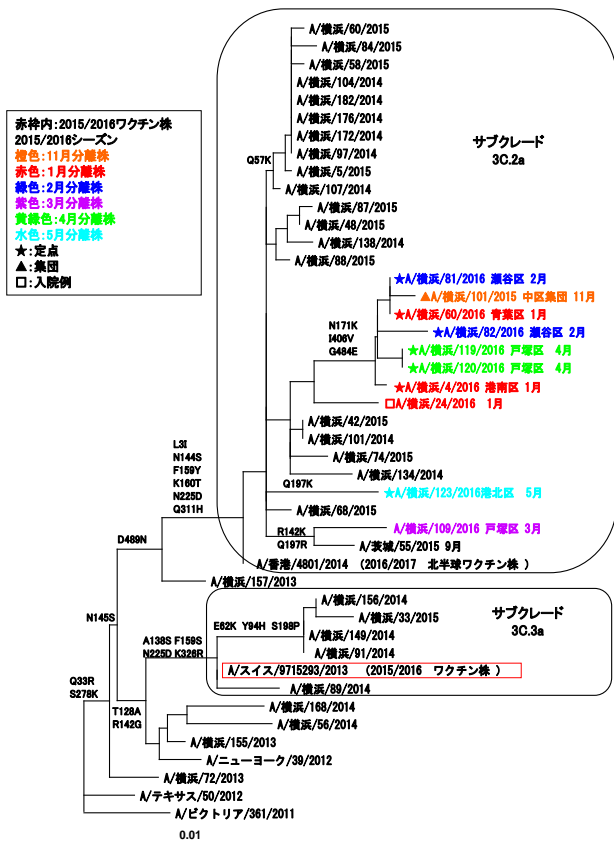


図5 AH3型ウイルスのNJ系統樹

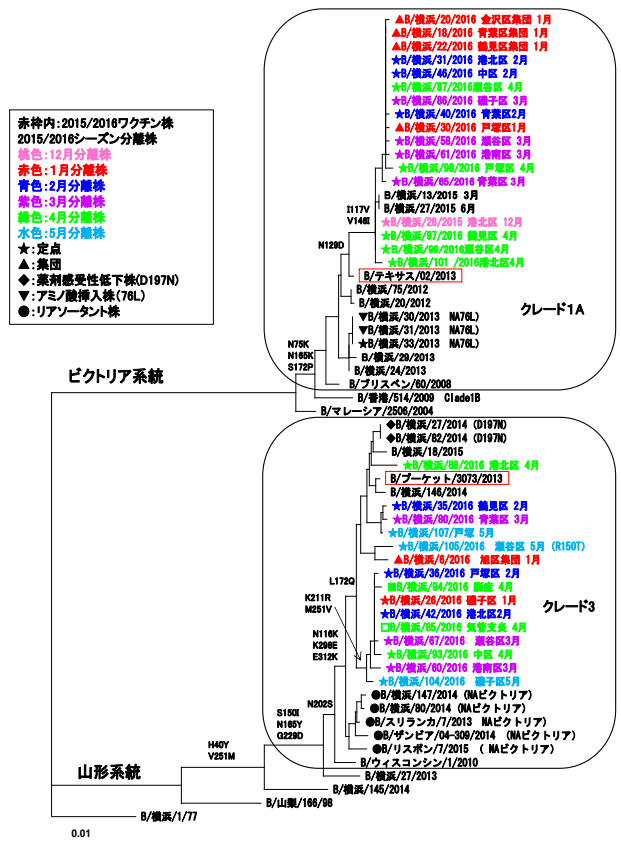


図6 B型ウイルスのNJ系統樹

れ、I117VおよびV146Iのアミノ酸置換がみられました。山形系統のウイルスはクレード3に含まれ、2015/2016シーズンのワクチン株B/プーケット/3073/2013からさらにK211R、M251Vにアミノ酸置換したグループが多数を占めました。

【抗インフルエンザ薬感受性サーベイランス】

全調査で分離したAH1pdm09ウイルス126株、AH3型ウイルス12株、B型ウイルス108株について、抗インフルエンザ薬に対するNA遺伝子の耐性変異部位を調べました。集団かぜ調査および定点ウイルス調査で分離したAH1pdm09ウイルス2株にH275Y変異が、山形系統のB型ウイルス1株にR150T変異がみられました。国立感染症研究所の薬剤感受性試験の結果、2月の小児科定点で未治療の患者から分離したAH1pdm09ウイルスは、オセルタミビルとペラミビルに対し薬剤感受性の低下がみられましたが、ザナミビル、ラニナミビルに対しては感受性でした。一方、1月の集団かぜ調査で採取した患者(オセルタミビル服用)から分離したAH1pdm09ウイルスはオセルタミビルおよびペラミビルに対するIC50値の上昇が軽度に抑えられていました。また、5月の小児科定点で分離した山形系統のB型ウイルス1株は、耐性株の基準に満たない低感受性株であり、オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、ラニナミビルに対するIC50値の上昇はみられませんでした。

【まとめ】

インフルエンザの流行は毎シーズンウイルスの種類や抗原性が異なっています。近年の傾向としては、数種類のウイルスによる混合流行が多く、長期間続いています。地域の流行情報を活用し、予防対策につなげることが大切です。

参考資料

- 1) 厚生労働省/平成28年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定について <http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-m/flutoppage/861-idsc/iasr-in/6615-437d01.html>

シックハウス対策検査 ～粘土から放散される化学物質について～

近年、室内空気中に放散した化学物質で居住者等の体調不良を引き起こす「シックハウス症候群」に関する問題が多く報告されています。このシックハウス症候群は、建材や家具等から室内空気中へ放散される化学物質が大きな要因の一つですが、今回は粘土からの異臭発生事案に伴い、粘土から放散する揮発性有機化合物(VOC)類に関する調査を行いましたので、調査の結果を紹介します。

1 事案概要

平成27年5月に粘土を使用していた者が粘土からの異臭を感じ、体調不良を訴える事案があったことから、当該粘土から放散される化学物質の調査を行いました。

2 調査結果

3年以上使用をしている苦情品の粘土A及び今回新たに購入をした粘土B(Aと同製品)から放散される化学物質について調査を行いました。粘土Aについては、予備調査でわずかに2,4-ジメチル-3-ペンタノンの放散が認められましたが、その20日後に行った本調査では放散が認められませんでした。一方、粘土Bでは予備調査及び本調査において1-プロパノールの放散が認められました。

これらの結果から、室内にて粘土を使用したときの室内空気中化学物質濃度を類推したところ、いずれも厚生労働省が定めた総揮発性有機化合物の暫定目標値($400 \mu\text{g}/\text{m}^3$)を大幅に下回っていることから、粘土を使用した場合でも室内空気中化学物質濃度はあまり増加しないと推測されました(表1のとおり)。

表1 調査結果

検体名	放散が認められた化学物質	化学物質の室内濃度*	
		予備調査(概算値)	本調査
粘土A(苦情品)	2,4-ジメチル-3-ペンタン	$0.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$	$0.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満
粘土B(新品)	1-プロパノール	$28 \mu\text{g}/\text{m}^3$	$28 \mu\text{g}/\text{m}^3$

* 居室の容積と使用された粘土の量から類推

【放散が認められた化学物質について¹⁾】

- 2,4-ジメチル-3-ペンタン(ジイソプロピルケトン)
リンゴ臭やハッカ性の芳香を有する無色の液体。溶剤、有機合成原料(ゴム、薬品、人工甘味料等)に用いられる。
- 1-プロパノール(*n*-プロピルアルコール)
エタノール臭のある無色透明の液体。殺虫剤・洗浄剤・化粧品などの溶剤や、不凍液に用いられる。



写真1 テドラーバッグと試験品

【調査方法について】

各粘土について、テドラーバッグ法による操作を行いました。

- (1) 空気を抜いてあるテドラーバッグに試験品を入れて封をし、清浄な空気を一定量入れます(写真1)。
- (2) 25°Cの環境で2日程度放置し、粘土由来の化学物質をバッグ内に放散させます。
- (3) バッグ内の空気を吸着剤入りの捕集管に通し、放散された化学物質を捕集します。
- (4) 捕集した化学物質を加熱脱着装置付ガスクロマトグラフ質量分析計にて測定しました。

¹⁾ 風土社「建築に使われる化学物質事典」、東賢一、他

横浜市感染症発生動向調査報告 7月

《今月のトピックス》

- ヘルパンギーナの流行警報が発令されました。
- 流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎の報告が例年より多い状態が続いています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。

全数把握の対象

【7月期に報告された全数把握疾患】

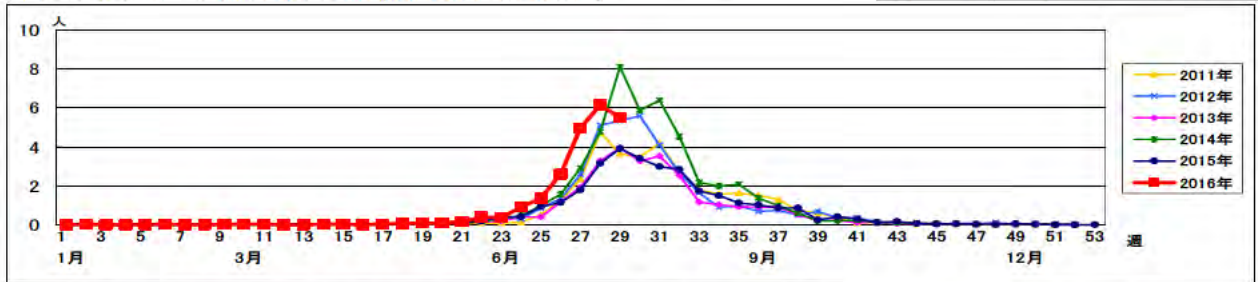
細菌性赤痢	1件	急性脳炎	4件
腸管出血性大腸菌感染症	14件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
A型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	4件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	3件	梅毒	6件
ウイルス性肝炎	1件	風しん	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1件

- 1 **細菌性赤痢**:1件の報告があり、ベトナムでの経口感染が推定されています。
- 2 **腸管出血性大腸菌感染症**:14件の報告があり(うち5件は無症状病原体保有者)、いずれもO157でした。4件は同居家族です。
- 3 **E型肝炎**:1件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 4 **A型肝炎**:1件の報告があり、国内での経口感染が推定されています。ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 5 **デング熱**:1件の報告があり、インドネシアでの感染が推定されています。
- 6 **レジオネラ症**:4件の肺炎型の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
- 7 **アメーバ赤痢**:3件の報告があり、1件は異性間の性的接触、2件は感染経路等不明でした。
- 8 **ウイルス性肝炎**:1件のB型の報告があり、国内での性的接触によるものと推定されます。ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 9 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:4件の報告があり、うち2件は医療器具等関連感染、1件は以前からの保菌と推定され、1件は感染経路等不明でした。
- 10 **急性脳炎**:4件の乳幼児の報告がありました。1件はアデノウイルス疑い、3件は病原体不明です。
- 11 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:A群が1件報告され、接触感染または創傷感染が推定されています。
- 12 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:3件の報告があり、うち1件がAIDS、2件が無症状病原体保有者でした。感染経路は、同性間の性的接触が2件、感染経路等不明が1件でした。
- 13 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:1件の報告があり、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 14 **侵襲性肺炎球菌感染症**:4件の報告があり、うち1件はワクチン接種歴が確認されましたが、3件についてワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 15 **水痘(入院例に限る)**:高齢者の報告が1件ありました。ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 16 **梅毒**:6件の報告(早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件)があり、うち5件が国内感染例で、1件は感染地域不明でした。
- 17 **風しん**:小児の報告が1件で、ワクチン接種歴がありました。
- 18 **薬剤耐性アシネトバクター感染症**:高齢者の報告が1件ありました。感染経路等不明でした。

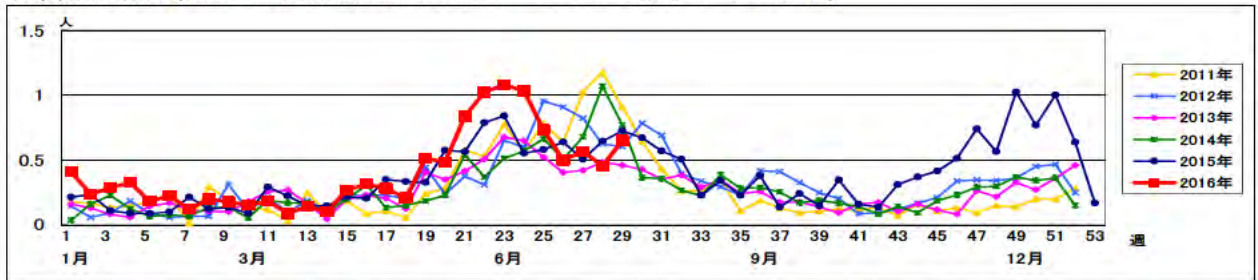
定点把握の対象

平成28年 週一月日対応表	
第26週	6月27日～7月 3日
第27週	7月 4日～7月10日
第28週	7月11日～7月17日
第29週	7月18日～7月24日

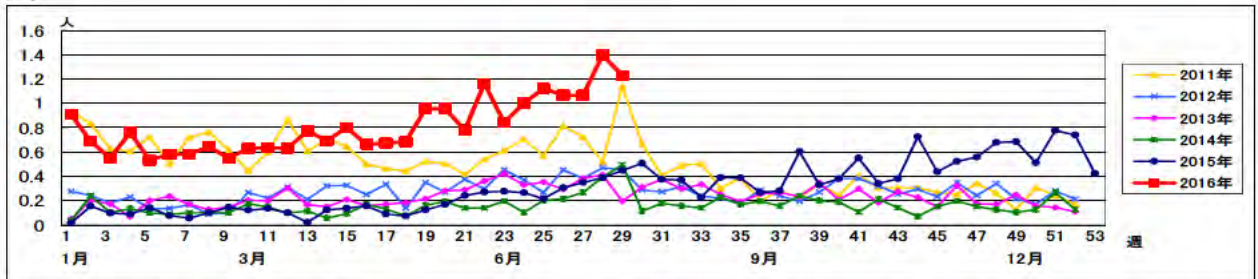
- 1 ヘルパンギーナ: 第28週にて市全体で定点あたり6.15となり、流行警報発令基準値(6.00)を上回りました(終息基準値は2.00)。第29週は5.49と、例年と比較して報告が多い状態となっています。市内の患者からはコクサッキーA群ウイルスが検出されています。



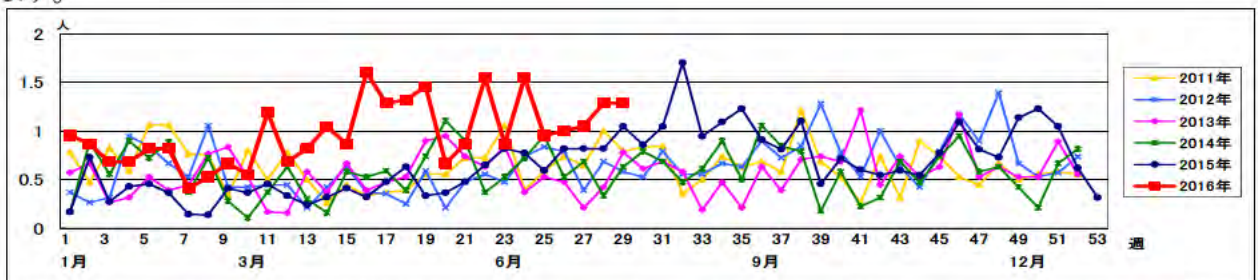
- 2 咽頭結膜熱: 第23週の定点あたり1.08をピークとして推移しています。



- 3 流行性耳下腺炎: 第29週で定点あたり1.23と、例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



- 4 流行性角結膜炎: 第28週で定点あたり1.29、第29週で1.29と例年に比べて報告が多い状態が続いています。



- 5 性感染症: 6月は、性器クラミジア感染症は男性が29件、女性が17件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が3件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が19件、女性が1件でした。
- 6 基幹定点週報: 無菌性髄膜炎は第26週0.00、第27週0.33、第28週0.00、第29週0.00と報告されています。マイコプラズマ肺炎は第26週0.25、第27週0.33、第28週1.33、第29週0.33と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 7 基幹定点月報: 6月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症9件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

7月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点36件、内科定点6件、眼科定点2件、基幹定点10件で、定点外医療機関からは11件でした。

8月8日現在、表に示した各種ウイルスの分離株9件と遺伝子30件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(7月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	咽 頭 結 膜 熱	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	発 疹 症	そ の 他 症 例
アデノ 1型			1							
アデノ 2型			2							
アデノ 4型										1
アデノ 型未同定	1	1								1
パラインフルエンザ 3型	3	1								
ヒトコロナ*1		1								
ムンプス						4				
ライノ	4	1								1
コクサッキー A 2型	1				1					
コクサッキー A 4型	1				1					
コクサッキー A 5型	1						1			1
コクサッキー A 6型				1						
コクサッキー A 10型	1									
コクサッキー B 5型		1						1		1
エコー 9型	1								2	
パレコ 1型							1			
パレコ 3型										3
合計	13	4	3	1	2	4	2	1	2	5

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、*1:HCov 229E or NL63、HCov OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

7月の感染性胃腸炎は、基幹定点から20件、その他が15件で、赤痢菌(*S. sonnei*)、腸管出血性大腸菌(O157:H-,VT2が1件、O157:H7,VT1&2が9件、O157:H7,VT2が4件)、腸管毒素原性大腸菌(O6:H16,LT&ST)、腸管凝集性大腸菌(O20:H-)、サルモネラ(*S. Enteritidis*、*S. Schwarzengrund*、*S. Typhimurium*、*S. Nagoya*)が検出されました。

その他の感染症は小児科定点から2件、基幹定点から4件、その他から37件でした。その他のA群溶血性レンサ球菌T1型は劇症型溶連菌感染症の患者から検出されました。バンコマイシン耐性腸球菌は*vanA*遺伝子保有でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(7月)

感染性胃腸炎

菌種名	検査年月		7月			2016年1月~7月		
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	件数		0	20	15	0	62	38
赤痢菌				1			2	
腸管出血性大腸菌					14	2	19	
腸管毒素原性大腸菌			1			1		
腸管凝集性大腸菌			1			1		
チフス菌						2		
サルモネラ			4			13	2	
カンピロバクター							1	
黄色ブドウ球菌						1		
不検出			0	14	0	0	42	14

その他の感染症

菌種名	検査年月		7月			2016年1月~7月		
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	件数		2	4	37	26	36	237
A群溶血性レンサ球菌	T1				1	3	2	
	T3		1			1		
	T4					2		
	T6					1		
	T12					3	1	
	型別不能		1			12	2	
B群溶血性レンサ球菌							1	
G群溶血性レンサ球菌						2	1	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						4		
バンコマイシン耐性腸球菌					1		2	
レジオネラ属菌							1	
インフルエンザ菌					2		5	
肺炎球菌						5	38	
黄色ブドウ球菌						1		
結核菌					23		126	
百日咳菌				1		2		
ボツリヌス菌							1	
その他				3	6		12	28
不検出			0	0	4	3	11	29

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成28年7月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成28年7月)

平成28年7月の総アクセス数は、96,072件でした。主な内訳は、感染症情報センター65.7%、保健情報12.5%、食品衛生3.8%、検査情報月報3.8%、生活環境衛生2.4%、薬事0.7%でした。

(2) アクセス順位 (平成28年7月)

7月のアクセス順位(表1)

表1 平成28年7月 アクセス順位

は、第1位が「大麻(マリファナ)について」、第2位が「衛生研究所トップページ」、第3位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」でした。

7月の総アクセス数は、前月に比べ約5%増加しました。アクセス順位を見ると、感染症関連の項目が多数を占めています。1位の大麻(マリファナ)については、

有名人による大麻等の使用が、報道等で話題となり、アクセス数の増加に繋がったと考えます。3位のクロストリジウム-ディフィシル感染症は、老人や免疫機能が低下している人たちに多く発生します。4位のB群レンサ球菌(GBS)感染症は、[健康な妊娠・出産のために注意したい感染症](#)の一つです。10位のE型肝炎については、患者数が過去最多となる報道がされたため、アクセス数が増加したと考えます。

順位	タイトル	件数
1	大麻(マリファナ)について	6,830
2	衛生研究所トップページ	3,706
3	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,642
4	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,806
5	ライノウイルスについて	2,722
6	横浜市感染症情報センター	2,529
7	エンテロウイルスについて	2,119
8	EBウイルスと伝染性単核症について	1,979
9	サイトメガロウイルス感染症について	1,525
10	E型肝炎について	1,184

データ提供: 市民局広報課

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「衛生研究所トップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成28年7月）

平成28年7月の問い合わせは、6件でした(表2)。

表2 平成28年7月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
リステリア菌について	1	感染症・疫学情報課
貝毒について	1	感染症・疫学情報課
アメリカ現地で販売されている卵の衛生について	1	健康福祉局食品衛生課が回答案を作成し、感染症・疫学情報課から回答
マイコプラズマ感染症について	1	感染症・疫学情報課
回転寿司店の衛生について	1	感染症・疫学情報課
食物アレルギーサイトの引用について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成28年7月）

平成28年7月に追加・更新した主な記事は、5件でした(表3)。

表3 平成28年7月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
7月 4日	感染症に気をつけよう(7月号)	掲載
7月11日	平成28年 熱中症情報	掲載
7月15日	コレラについて	更新
7月21日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成28年)【速報版】	更新
7月22日	ヘルパンギーナの発生状況(第28週)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】